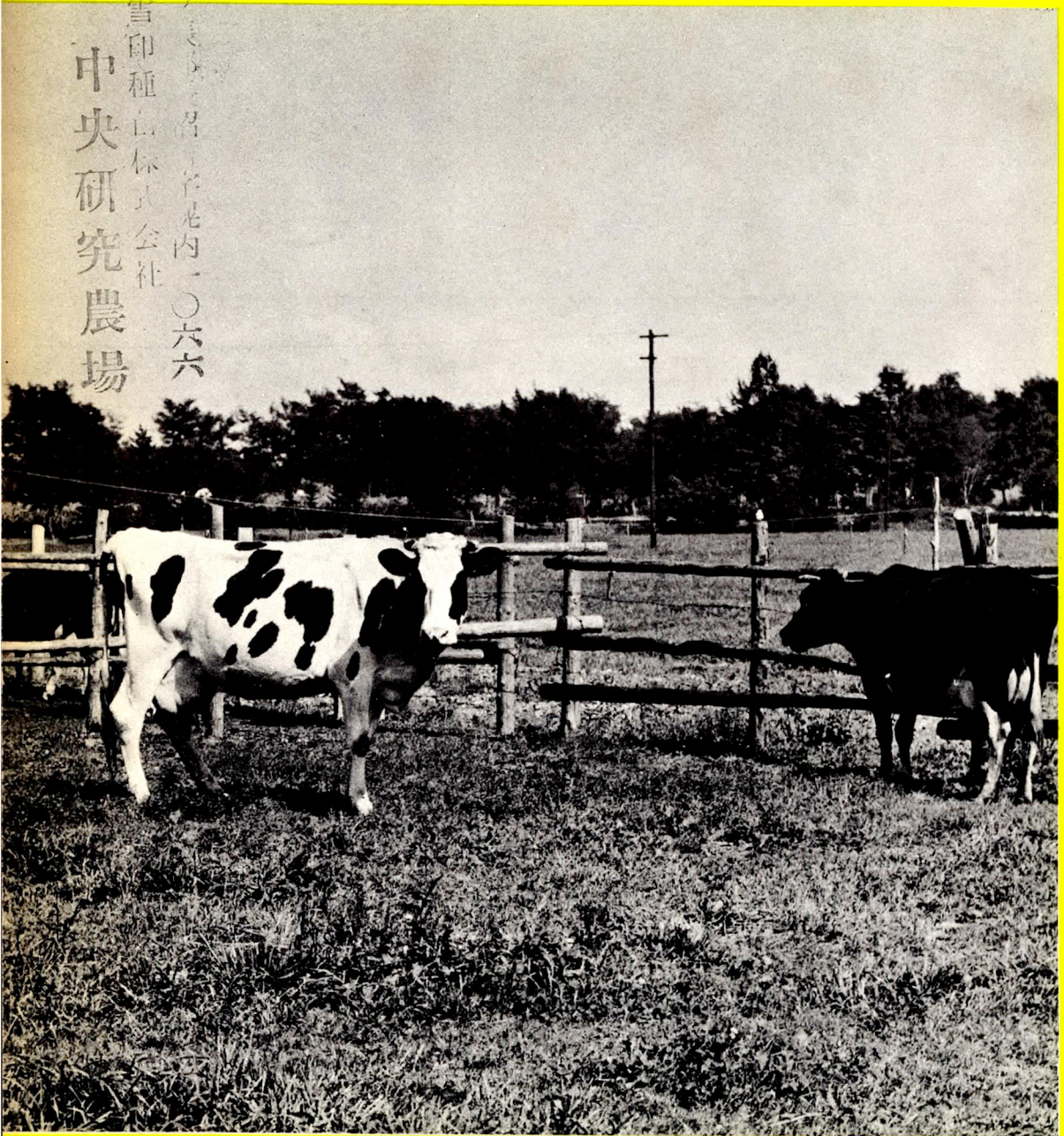


牧草園藝

第十五卷・第十三号

昭和二十八年五月十五日
昭和四十二年十一月一日
種郵便物認可
每月一回(二日発行)

雪印種山標式会社
中央研究農場
昭和二十八年五月十五日
昭和四十二年十一月一日
種郵便物認可
每月一回(二日発行)



雪印種苗株式会社

農林省農事試験場 荒井正雄(農博)

13. イヌビユ

畑地や路傍に普通に生える一年生草本です。5月ごろからさかんにはえはじめます。植物体全体がやわらかで、無毛です。茎は、根もとから枝をわけ、ななめにのびますが、直立はしません。茎の色は緑色でときには褐紫色をおびます。葉は互生し、長い葉柄があり、菱状卵形で先端にくぼみがあります。草丈は20~30cmくらいになります。夏から秋にかけて茎の先と葉のつけ根に多数の緑色の細かい花を密生させ、茎先の花序は1個の花穂を形成します。



イヌビユ

14. カヤツリグサ

畑でもつともよく生えるカヤツリグサ科の代表的な一年生草本です。5~6月ごろにもつともよく発生し根もとから葉をだします。葉は細長く線形をしております。茎は葉の間から直立し、通常1株から数本でています。茎は三稜形の平滑緑色であり、高さは30~40cmくらいです。7~8月ごろには、茎の先端に3~5片の長い葉状の苞葉をだし、そのなかから黄褐色の多数の小穂をつけた花穂をだします。小穂は、穂軸に対してほぼ直角につけます。



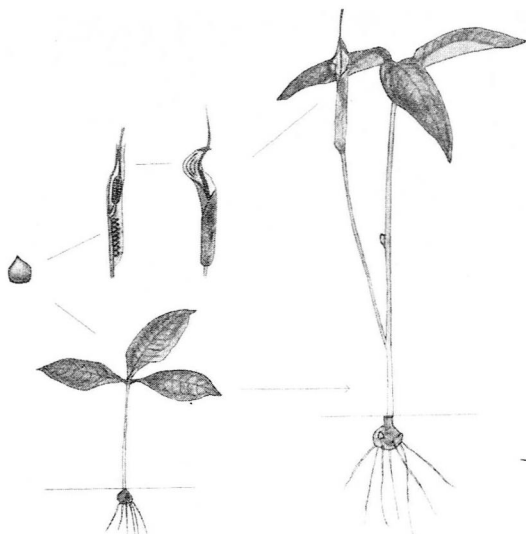
カヤツリグサ

15. カラスビシャク

地下に径1cm内外の円い球茎があり、その球形から1~2枚の葉をだす多年生草本です。

葉は細長く、10~20cmくらいで緑色です。葉柄下部の内側に一つの珠花をつけます。葉は小さな3枚の小葉からなり、小葉は卵状の楕円形から長楕円形、または線状皮針形のものなどがあります。ときには3つの小葉のつけねにも小珠茎をつけます。

6月ごろに1本の茎をだし、頂きに一つの肉穂状の花序をつけます。この草は、別名ハンゲ・スズメノビシャク・シャクシソウ・ヘソクリ・ヘブスなどともいわれます。



カラスビシャク